
二級河川春木川水系 の環境面・景観面について

- 1.流域の概要
- 2.流域の将来像
- 3.河川の特性
- 4.環境面・景観面から見た課題・目標・実施
 - ・水質
 - ・利水・生態系
 - ・河川空間利用
 - ・景観・親水整備
- 5.維持管理

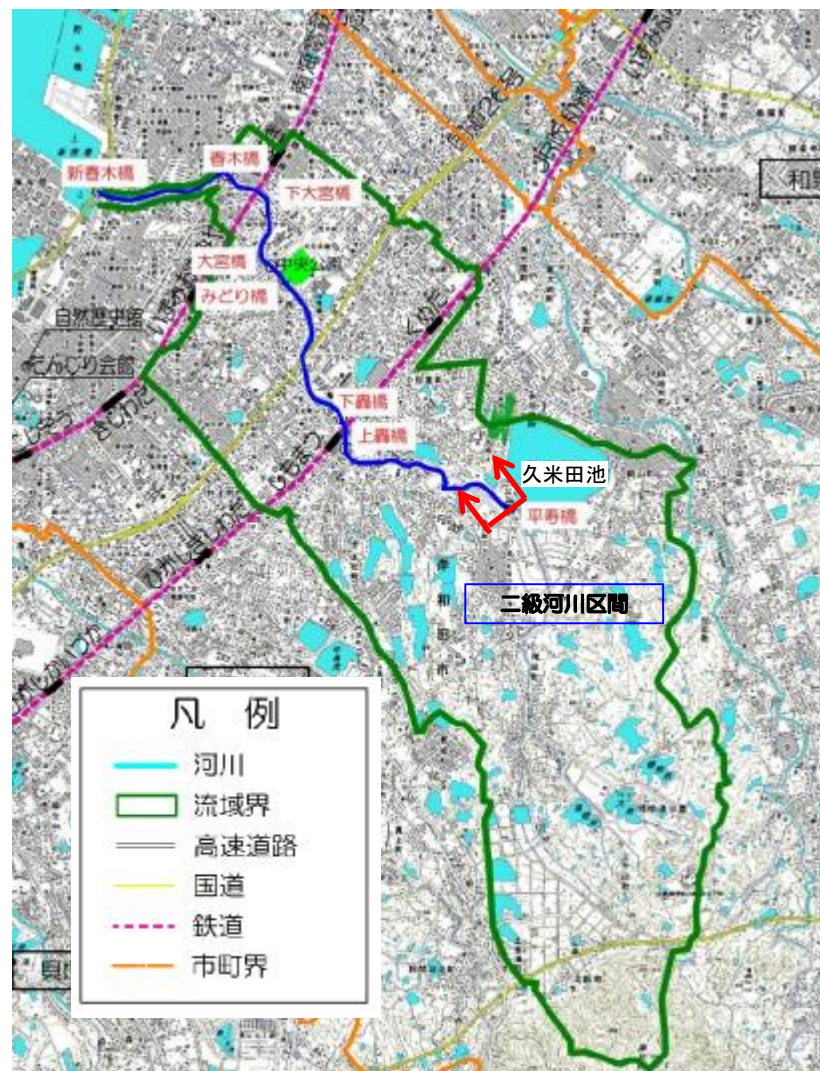
1. 流域の概要

- 春木川は、岸和田市の神於山（こうのやま）に源を発し、山間部を北方向に流下し、尾生町（おぶちょう）付近で北西方向に曲流し、大阪湾に注ぐ二級河川。
流域面積は14.4 km²、流路延長は約10.0 km（二級河川指定延長5.7 km）。
全流域が岸和田市に包括されている。

水系名	河川名	指定延長	流域面積
春木川	春木川	5.7km	14.4km ²



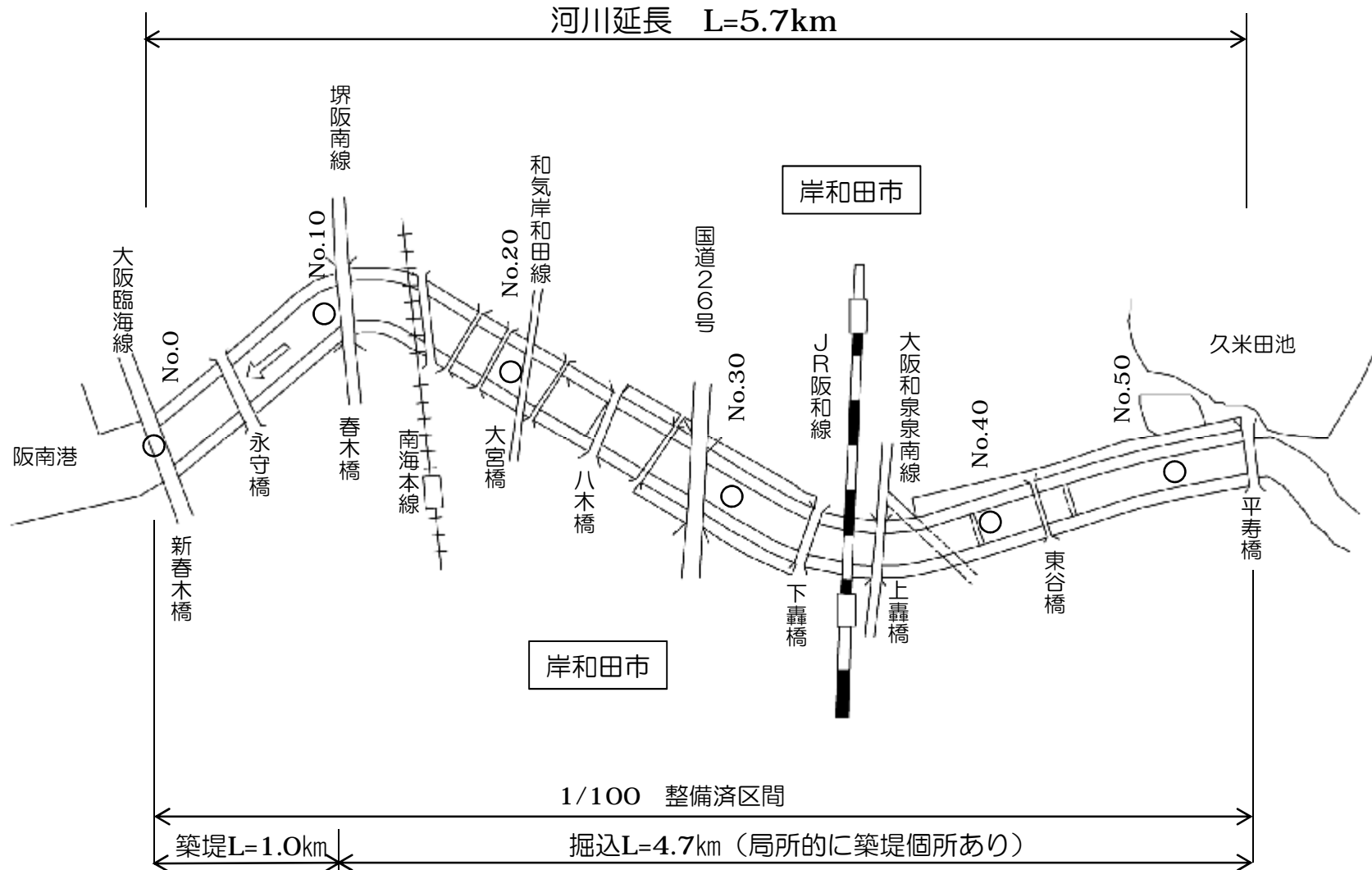
春木川水系位置図



春木川流域

1. 流域の概要

- 二級河川指定区間は河口～平寿橋までの5.7km。
- 過去から1/100対策が進み、二級河川指定区間において治水上の対策が完成。
- 河口から1.0kmまでが築堤区間、その上流はほぼ掘込区間となっている。



春木川概要図

2. 流域の将来像

＜大阪府、岸和田市の将来像＞

- ・「大阪府の将来ビジョン」、「岸和田市（都市計画マスタープラン）」それぞれの中で、河川について防災面、生態系などの自然環境の配慮、親水・景観性の3つの面からの整備が謳われている。

●大阪府の将来ビジョン

- 東南海・南海地震等による津波に備えるための防潮堤の耐震化・嵩上げ
- 河川環境の改善等による水とみどりのネットワークの創造

●岸和田市（都市計画マスタープラン）

- 河川やため池などの水辺を適切に保全し、動植物の生息に配慮した水辺環境の回復
- 河川を軸にみどりをつなぎ、水とみどりと調和した快適で魅力のある空間形成

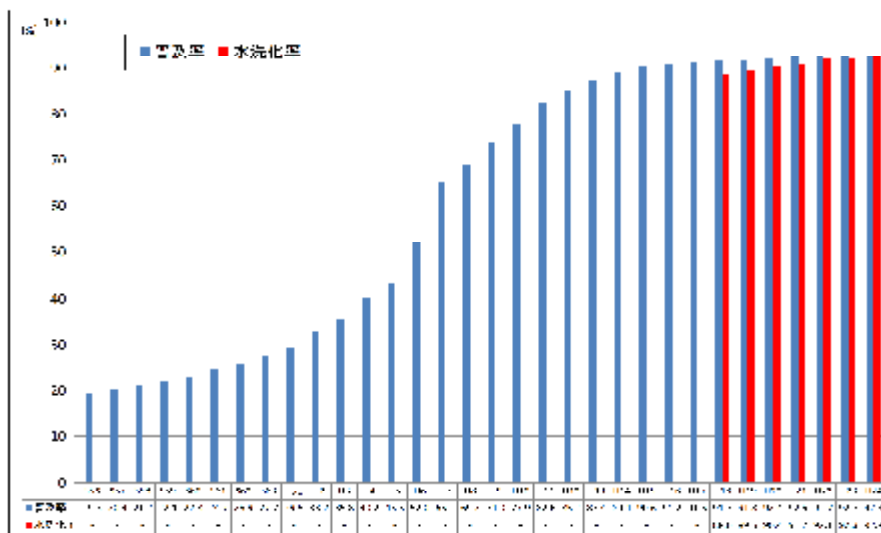
3. 河川の特性

- 下流部は、河口～春木橋までの区間で、ここまでが高潮対策区間となっている。この区間は工場や住宅が密集している市街地を流れている。高潮対策区間では、鋼矢板護岸の上部にブロック積及び擁壁で構成された防潮堤防が整備されており、川幅は20～30m、植生はほとんど見られない状況である。
- 中流部は、春木橋～JR阪和線までの区間で、住宅地を流れている。河道は、コンクリートブロック積護岸や緑化ブロックで川幅は18～20m、河道内は、瀬や淵が形成され、植物が繁茂している。
- 上流部は、JR阪和線～平寿橋までの区間で、住宅地を流れている。また、2箇所の旧川部が残っており、河畔林などの自然環境が残っている。河道は、コンクリートブロック積護岸で川幅は11～18m、河道内は、瀬や淵が形成され、植物が繁茂している。



4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施（水質）

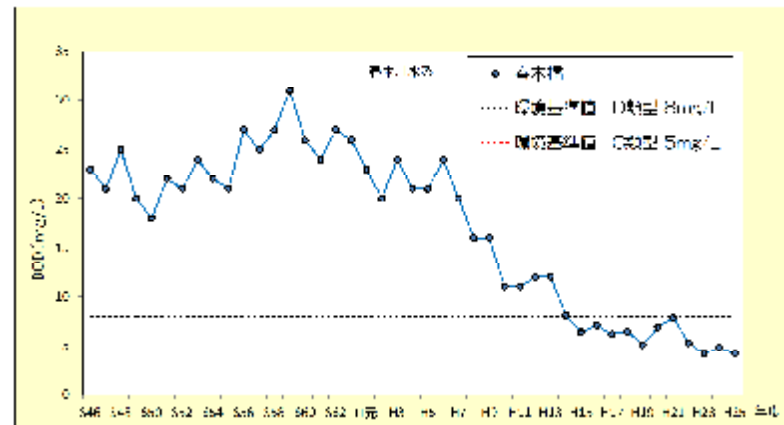
- 環境基準については、春木川がD類型（BOD8mg/L以下）に指定されている。（環境基準点は春木橋）
- 近年、下水道整備等の進捗（下水道普及率92%（平成25年度末時点））等により改善がみられ、平成15年度以降は環境基準を満足しており、現在は、C類型（BOD5mg/L以下）に達している。



岸和田市における下水道普及率

※下水道普及率＝下水道整備人口/行政人口

※水洗化率＝水洗化人口/下水道整備人口



出典：「水質測定結果の概要」

（大阪府HP 環境農林水産部 環境管理室環境保全課）



水質基準点位置図

4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施（水質）

課題

- 環境基準は達成しているが、現在生息している魚類を減少させない水質の維持が必要である。

目標

- 魚類の生息・生育環境に必要な水質の維持を目指す。

実施

- 地域住民、学校、NPO等と連携して、環境学習、啓発活動、清掃活動等の取組を進め、良好な水質の維持に努める。

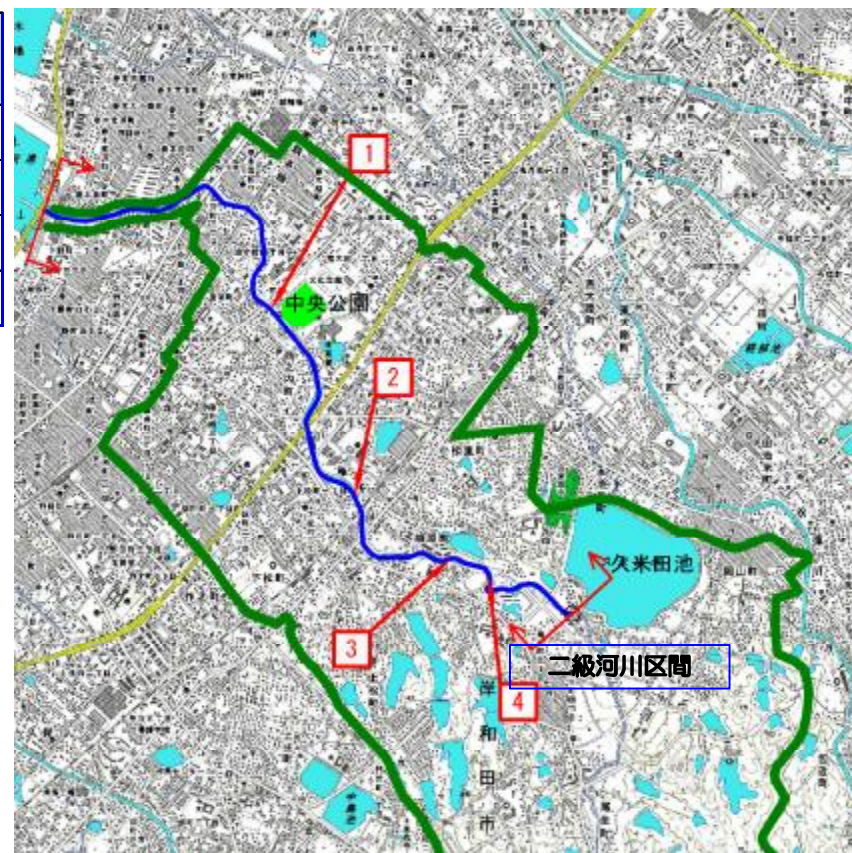
4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施（利水・生態系）

○利水

- ・春木川の河川水は、農業用水にのみ利用されている。
- ・4件の慣行水利が届け出されており、河道改修に伴いすべて可動堰に改築されているが、2箇所は魚道が未設置である。
- ・落差工は5箇所あり、2箇所は傾斜型であるが、残りは段差があり、縦断的連続性が損なわれている。

取水施設諸元

番号	位置	施設名称	取水形態	水利権所有者	許可慣行区分	最大 取水量 (m ³ /S)	現況かんがい面積 (ha)			高低差 (m)	魚道の 有無
							水田	畑	計		
1	No.22+6.0	本湯井堰	頭首工	加守町実行組合	慣行	0.170	10.0	-	10.0	1.0	有
2	No.29+17.5	上湯井堰	頭首工	西之内水利組合	慣行	0.160	30.0	-	30.0	1.1	有
3	No.43+19.0	轟井堰	頭首工	額原水利組合	慣行	0.130	8.0	-	8.0	0.5	無
4	No.46+0.0	新開き用水	頭首工	額原水利組合	慣行	0.170	10.0	-	10.0	-	無



取水施設位置図

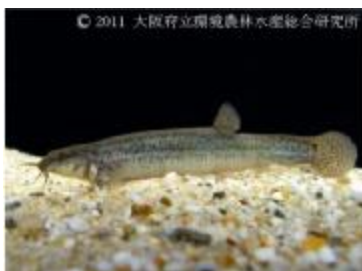
4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施（利水・生態系）

○魚類

- 全川を通してコイ、ギンブナ等の止水域や緩流域を好む種が多く、東谷橋付近では水質の改善に伴い、以前は確認されなかったメダカ（環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ種に指定）も見られる。また、岸和田市営中央公園付近ではドジョウ（大阪府レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ種に指定）も確認されている。
- 河口から春木橋にかけての高潮区間では、ボラやスズキが確認され、春木橋下流付近では外来種であるブルーギル、ブラックバスも確認されている。
- 底生動物でも以前は確認されなかったマシジミやヒラマキミズマイマイ（環境省レッドリストで準絶滅危惧種に指定）などが見られる。

目科名	科和名	種和名	学名	重要種		産地	新たに確認された魚類 (H25年度以降)
				環境省 レッドリスト	大阪府 レッドデータブック		
ニシン目	ニシン科	マイワシ	<i>Sardinops melanostictus</i>				○
	メダカドジョウ科	メダカドジョウ	<i>Lepomis japonicus</i>				○
コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>				○
		ギンブナ	<i>Carrasius auratus longidorsif</i>				○
		キツネ	<i>Pseudorasbora parva</i>				
		タチウオ	<i>Cyprinus kuroshimae shanensis</i>				
ドジョウ目	ドジョウ科	ドジョウ	<i>Megacopterus argenteus</i>		絶滅危惧Ⅱ種		
ダツ目	メダカ科	メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	産地絶滅Ⅱ種	絶滅危惧Ⅱ種		
サウリキ目	サウリキ科	サウリキ(本土産)	<i>Monopterus albus</i>			○	
スズキ目	スズキ科	スズキ	<i>Scorpaenopsis japonica</i>	産地の絶滅種(絶滅種)			
		ナンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis microchirus</i>			○(外来種)
		ブラックバス	<i>Misoxanthops ahleii</i>				○(外来種)
	ボラ科	ボラ	<i>Megalops atlanticus</i>				
	ハゼ科	メナダ	<i>Oryzias latipes</i>				○
		ウロハゼ	<i>Glossogobius aureus</i>				○
マハゼ		<i>Asaninotus japonicus</i>				○	
アベハゼ		<i>Mugilichthys abei</i>				○	
		トウヨシノボ(外来種)	<i>Pseudorasbora parva</i>				

出典：「河川水辺の国勢調査 H21」（国土交通省）



ドジョウ



ギンブナ



コイ



メダカ

確認された魚類

写真の出典：大阪府立環境農林水産総合研究所HP

- 「河川水辺の国政調査 H21」での確認種一覧の魚類は、現在（H25）も確認されている。その他にハゼ科のウキゴリも見られる。
- 聞き取り調査：きしわだ自然資料館

4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施（利水・生態系）

課題

- 井堰や落差工による縦断的な不連続性が存在しており、魚類の移動を妨げている。

目標

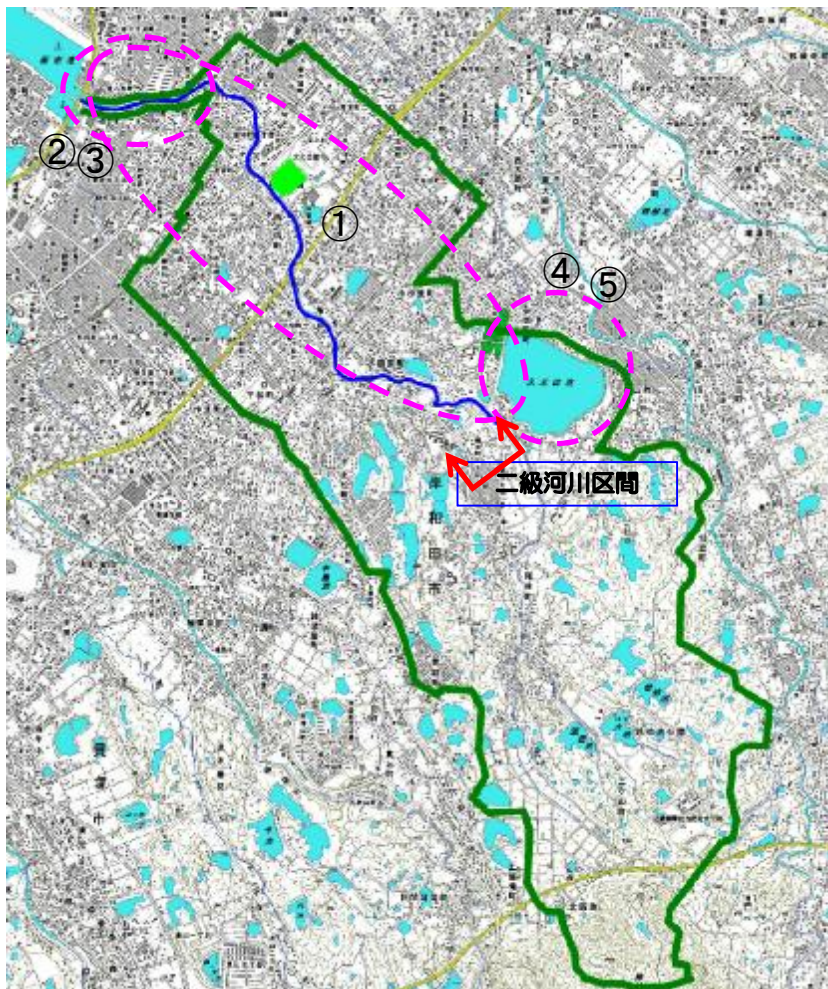
- 流水面の連続性の確保に努める。

実施

- 維持補修等の機会に合わせて、魚道の設置等により不連続性を解消するとともに、農業関係機関と連携し、農業用水などの適正かつ効率的な水利用を図り、河川の流水の正常な機能を維持することに努める。

4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施（河川空間利用）

- ・アドプトリバー・プログラムや春木川一斉清掃等による清掃活動が盛んに行われ、多くの地域住民が参加している。しかし、河道内へ降りる階段やスロープが少ないことから、清掃活動の際にはハシゴ等で降りている状況である。



春木川におけるアドプト・リバー・プログラム

	名称	団体名	認証年月日
1	アドプト・リバー・常磐	Gvk常磐	H16.8.1



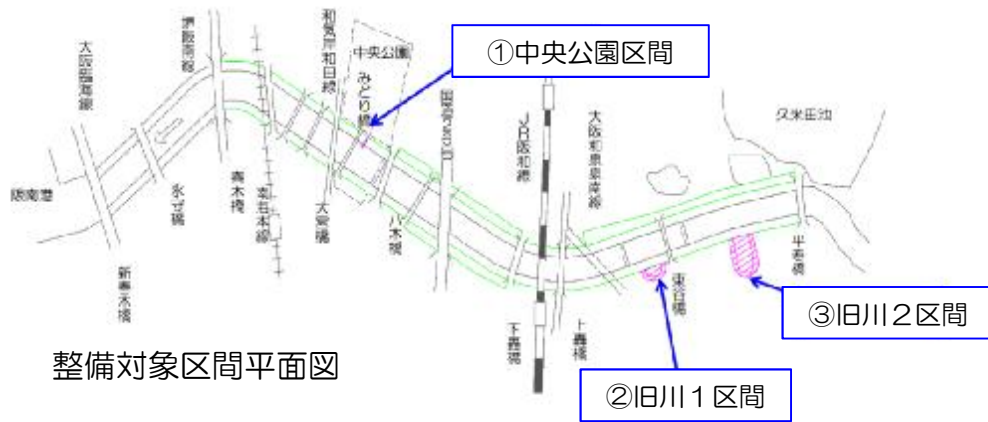
河川空間利用

春木川の空間利用					
事業名称	事業概要	時期	場所	対象及び人数	
① 春木川一斉清掃	春木川の源流から河口まで約11kmにわたり一斉清掃する。	10月、3月	春木川全川	市民1000人以上	
② 春木川カニ釣大会	春木川河口部に生息するカニを釣りながら河川環境と生態を学習する。	10月	春木川河口部	小学生100人	
③ 春木川魚釣り大会	ファミリーの絆を深め、春木川の環境を体験する。	8月	春木川	市民（ファミリー単位）10ファミリー参加	
④ ため池環境学習	生き物調査や野鳥観察会、ため池の役割の学習会等を通じて、水辺の環境を学習する。	随時	久米田池等	市民、小学校、子供会等	
⑤ ため池清掃活動	ため池の一斉清掃を実施する。	10月、2月	久米田池等	市民500人程度	

出典：岸和田市HPより

4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施（河川空間利用）

- 中流部や上流部では、中央公園部や旧川部等で、親水性に配慮した整備を行う。



① 中央公園区間
現況写真



① 完成予想図

整備区間	主な整備内容
①中央公園区間 延長約90.0m	オープンスペースとして、公園と一体となった親水広場として整備。
②旧川1区間 延長約40.0m	自然環境が残り、水の流れに接することができる広場として整備。
③旧川2区間 延長約30.0m	



② 旧川1区間 現況写真



② 完成予想図



③ 旧川2区間 現況写真



③ 完成予想図

4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施（河川空間利用）

課題

○地域住民が河川を利用する上で、水辺へのアクセスが困難。

目標

○中央公園や旧川部を、川に接することのできる空間として整備する。

実施

○中央公園や旧川部の整備においては、岸和田市、地域住民と連携して整備内容を検討し、実施する。

5.維持管理

課 題

○今後、河川管理施設の老朽化が進むことによる施設の損傷、土砂堆積による河積阻害、河床低下による施設の損傷が発生するおそれがある。

目 標

○河川の特長や施設の劣化状況を踏まえつつ、計画的な維持管理を行い、災害の発生を未然に防ぐ。

実 施

○河川管理施設について、定期点検等を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握に努め、人命を守ることを最優先に、地先の危険度や土地利用状況などを考慮し、優先順位を定めて、危険度の高い箇所から計画的に補修を行う。
また、土砂堆積、河床低下等については、状況調査を行い地先の危険度等を考慮し、計画的な維持管理、対策を行う。